

キャンパスおけから学習講座《公募型市民企画講座》

小田原文化史講座 第2回

～ういろうにみる酒伝童子絵巻～

戦国時代の歴史では城と武將に注目が集まります。小田原の歴史でも、やはり小田原城と北条五代への関心が高いと言えます。一方で、北条時代から小田原には豊かな文化が花開いていたことは、あまり知られていません。小田原に残る文化の歴史を、「ういろう」家の歴史から紐解くと、それぞれの遺跡や遺物が繋がって見えてきます。本講座では、小田原史を文化の観点から探っていきます。講座の概要は、裏面をご覧ください。



「ういろう」本店



歌舞伎「外郎売」
(外郎家所蔵)



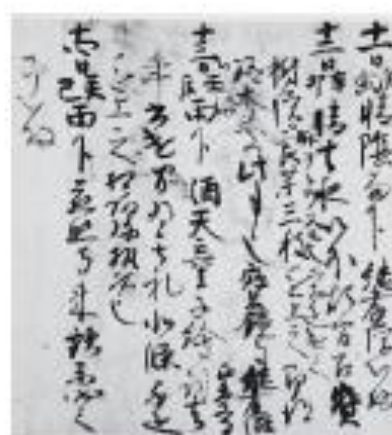
芦之湯「薬師堂」

- ◆ 講 師：深野 彰氏 (エッセイスト)
- ◆ 日 時：7月22日(土)13:30～15:30 (受付 13:00より)
- ◆ 会 場：小田原市生涯学習センターけやき 視聴覚室
- ◆ 定 員：50名(申込順)
- ◆ 費 用：1,000円
- ◆ 申込み：

・申込先・問合せ NPO法人小田原市生涯学習推進員の会
・申込方法 電話受付:0465-33-1890
直接申込み:生涯学習相談窓口(けやき2階)
ホームページから <http://www.campusodawara.jp/kouza/>

■ 共催：小田原史談会
NPO法人小田原市生涯学習推進員の会

外交官・外郎家にみる酒伝童子絵巻の世界



後法成寺関白記

「酒伝童子」は平安時代後期、源頼光が京の都を荒らす酒伝童子一味を退治する物語です。小田原北条氏二代目の北条氏綱は、京の絵師・狩野正信に依頼して「酒伝童子絵巻」を制作しました。詞書には当時の京の有力者の名が連なっています。市川團十郎が演じる歌舞伎十八番「外郎売（ういろうり）」の有名な長台詞をよく聞いてみると、酒伝童子に関係する名前などが織り込まれています。外郎売では早口語りが話題となりますが、なぜ酒伝童子の物語が組み込まれたのでしょうか。創作当時の時代背景を探ってみましょう。また、五代目北条氏綱の正室・篤姫は、再婚時に北条家伝来の「酒伝童子絵巻」を持参しています。併せて篤姫との縁を小田原文化史の観点で追ってみましょう。

講師紹介(深野 彰氏)



1974年に早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了(生産工学専修)。生産システム設計、中国・蘇州駐在等の会社勤務後、現在エッセイスト。中国の文化史、小田原の文化史などをテーマに執筆。著書「蘇州通信」(2010年、中国・蘇州文化に関するエッセイ)、「ういろうにみる小田原」(2016年、「ういろう」の歴史を縦糸にして、小田原史の文化人を横糸にして小田原の文化史を織り込んだ)。小田原市社会教育委員、小田原市文化事業推進委員会監事。小田原史談会会員。1949年生まれ。

会場アクセス

小田原市生涯学習センター けやき



〒250-8555 小田原市萩原 300 番地

電話 0465-35-5300

○徒歩 JR小田原駅西口から約15分

○バス ①②とも、市役所前下車 徒歩約1分

①JR小田原駅東口2番のりば(所要時間約8分)

②JR小田原駅西口2番のりば 久野車庫・見河原循環方面(所要時間約4分)

※駐車台数に限りがございますので、

ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。